

---

# 戦争と平和と天皇陛下

来々

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

戦争と平和と天皇陛下

### 【Nコード】

N2368B

### 【作者名】

来々

### 【あらすじ】

戦争とは本当に酷いものだと思います。だから、戦争のせいで狂ってしまった人間も、沢山いると思うんです。

## （前書き）

この作品は、今までにない駄作です。意味不明です。それでも読みたい方は、どうぞ。

拝啓

最愛の我が妻、そして我が子供達へ。

まず先に言っておこう。まだ当分、そっちには帰れそうもない。  
ここは酷い所だ。

毎日人に銃を向けなければならない。

毎日人に銃を向けられなければならない。

人を撃つのは嫌だ。

とても嫌だ。

引き金を引いた後に、手にジーンと残るんだ。

手に撃った感触が残るんだ。

人を撃つたと実感させられるんだ。

遠くから撃つと、人はあっけなく死ぬ。簡単に死ぬ。

近くから撃つと、人が苦しんで死ぬのを見る事になる。

人の命がこんなに軽いモノであるハズがない。

だが人は、銃で撃つとすぐに死ぬんだ。

まだ、帰れそうにない。

いくら撃つても終わらないんだ。いくら撃つても戦争が終わらないんだ。

自分が何故撃っているか、何を撃っているかわからなくなるんだ。

ここは酷い。  
ここは怖い。  
怖い、恐い。

まだ、帰れそうにない。

何を書いているんだ。  
何を書いているんだ。

こんな事を書いては、天皇陛下への不敬と取られてしまうだろうに。  
だが後に生きる人々は、この戦争を知らなければならぬ。  
否、知って欲しい。だから書いている。

まだ、帰れそうにない。

私は昨日も、今日も人を殺した。この戦場で生きているヤツは、もう皆人殺しだ。  
私もだ。

もう神は私を許してくれないだろう。  
だからせめて妻よ、子供達よ。

私を許してくれ。

まだ、帰れそうにない。

八月七日

敬具

「……………この手紙が届いた頃には、戦争は終わっていました。私の夫は、私達家族のために、戦争の恐ろしさを教えてくれました。」

「この手紙が届いた時、世間は九月だというのに、まるで夏みたいな暑い日でした。郵便局の方が、『旦那さんはお国のために、立派に戦って死んでいったそうですよ』と言いました。」

「皆さん、「お国のため」とは何でしょうか？皆さん、覚えていて下さい。国というのは、私達のために有るハズです。私達がいてこそ有るハズです。」

「こんな事を言うてはいけなんでしょうか。」

「でも、言います。」

「天皇とは、本当に必要ですか？」

「さあ、私達で新しい日本を作りましょう。新制日本の幕開けですよ。」

『六時のニュースです。今日未明、皇居近くにおいて大規模な逮捕劇がありました。主犯の人物は八十歳を超える女性で、戦争による孤児や未亡人を集め、天皇陛下の殺害をもくろんでいた模様です。調べによりますと』

#### 追伸

妻へ、

私はもう帰れないかもしれない。

だから妻よ。

日本をもっと良い国にしてくれ。

天皇陛下とともに、日本をもっと良い国に

（後書き）

こんにちは。来々です。今回の作品は………なんか変ですね。意味が解りませんね。それでも最後まで読んでくれた方、有難うございます。次こそ頑張ります。次回作にご期待下さい。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2368b/>

---

戦争と平和と天皇陛下

2010年10月22日09時01分発行